

【多文化版】個別の指導計画

〔 学校〕

学年・組		ふりがな 本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ 支援員が入ったことを喜んで、支援時間にはよく話す。 本が好きで、日本語の本も積極的に読もうとする。 外国語（英語）の時間は、明るく大きな声で発音してくれる。</p> <p>つまづいているところ 教室で一人であることが多く、寂しい思いをしている様子が見られる。 腹痛で、保健室によく行く。</p>		
短期目標 (期間:1学期)	<p>学校生活 友達との会話が増えて、自分の気持ちを伝えられるようになる。</p> <hr/> <p>日本語・教科学習（取り出し・入り込み等） 句読点の使い方を理解する。連文を作れるようにする。 所属学級での授業でも、やっていることのエッセンスをとらえられるようにする。</p> <hr/> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 異なる言語・文化を持つ自分について、肯定的な気持ちを持てるようにする。</p>		
手立て	<p>学校生活 取り出しの時間—支援員との会話などを通して、リラックスして過ごせる環境をつくる。 国語で気持ちを表す語彙を取り上げ、会話の中で使えるようにする。 所属学級の時間—これまで話しやすそうだった児童と同じ班にして、友達と話すチャンスを増やす。 運動会—多くの教員で様子を見守り、肯定的な声掛けをする。 保健室—本人が自分の気持ちや状態をことばにできるよう、時間を取って対応する。</p> <hr/> <p>日本語・教科学習（取り出し・入り込み等） 取り出しの時間—本人に今日の出来事を話させ、それを作文にする中で、句読点の使い方を理解させる。 自分で文を作らせる機会を多く設定し、連文になるようにする。 所属学級の時間—その日の学習の重要な部分を、やさしい日本語でゆっくり話すようにする。</p> <hr/> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 総合的な学習の時間で、いろいろな国の文化を学ぶ単元を取り入れ、母文化の紹介をしてもらう。</p>		
評価			
作成者	学級担任：		日本語支援員：